

## 令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（可美中）学校運営協議会長

### <評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・校長が方針を発表し、他の委員は内容を理解して共有する、現状の学校の実態をオープンにし、その内容について意見交換する、毎回活発な活動が出来ていたのではないだろうか。
- ・可美中のグランドデザインを読み、会に参加することができた。また、地域の方、先生方が子どもたちのために、日々教育に携わっていただいていることを理解できた。
- ・令和4年度第1回学校運営協議会のときに、資料「令和4年度浜松市立可美中学校グランドデザイン」を確認し、しっかり熟議できたと思う。
- ・学校の基本方針であるグランドデザインも分かりやすく示され、十分な熟議ができた。
- ・熟議することができた。学校側からのグランドデザイン等の説明を聞き、他の方の意見も踏まえ、自分なりに理解できたと感じる。
- ・しっかり熟議できたと思う。学力調査の結果からは国語力不足がうかがえたのが残念だったが、生活習慣面での基本的なリズムが整っていることが評価できる。熟議の中でとても有意義な意見が出され、十分機能したと思う。
- ・毎回学校運営協議会の資料を作成しており、第1回で、学校運営の基本方針を学校長よりグランドデザインとしてしっかりと示されていた。かつ、学校教育目標と可美中ビジョン、そして重点目標・具体的施策・数値目標の3点を関連させて作成しており、学期ごとに評価され運営協議会に示されていたので毎回確認することができた。活動写真や数値結果など大変さを思う。
- ・学校、家庭、地域の実態を踏まえ、「育てたい力」を第1回から出されて共有している。学校教育の現状について、毎回映像を映しながらの説明があり、成果や課題をつかむことができた。PTA役員等の交替はあるが、毎年会う人が多いので、信頼関係ができて、委員の話したいことがよく分かった。

### <評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- ・受検対策の面接練習、やらまいか講演会等、地域の方々が学校の現場に入り、活動に取り組む姿が見受けられる。大変な満足感を得ている。
- ・先生方の仲の良さ、パワフルさに感心する。地域とのつながりを大切にしていることも分かった。
- ・令和4年度もしっかりと進めることができたと思う。今年度は課題を達成するため、年度当初から受検前面接指導等、様々な熟議がなされたと思う。
- ・学校運営に関しての熟議は、地域と学校とのつながりが年々増していると感じた。熟議の質が上がっていると思う。
- ・熟議を進めることができた。毎年の継続的な活動が多いが、少しずつ改善しながら進められていると感じる。また、面接練習では地域住民を巻き込むことができている。一方で、地域・保護者への周知という点では、まだまだ不足していると思う。
- ・十分できたと思う。新しく設置される校内適応指導教室についても熟議され、理解を深め合えたと思います。青少年健全育成指導員の選出については、PTA代表から率直な意見が出され良かったと感じた。
- ・担当者とコーディネーターによって昨年までの活動内容や成果を資料にして報告され、今年の取り組みについて協議がスムーズに進められた。PTA会長の参加や、社協にも所属している委員もいて、それぞれの方々の意見や活動の取り組みもあり、参考になった。
- ・自校の「育てたい力」のために、やらまいか講演会実施への取組や、3年生受検前面接練習の準備等、熟議を進めてきた。その成果は少しずつ地域・保護者に周知されている。回を重ねるたびに、反省点を直し、より内容が改善されている。

### <評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・今回初めての参加であったが、大変前向きな会で勉強になった。
- ・PTAの代表として会に参加する中で、もう少しPTA、保護者がこの会の意味を理解し、積極的に関わる必要があると感じている。
- ・第3回学校運営委員会での熟議で挙げた「はばたきルーム」の運営について、来年度は初年度として「校内適応指導教室」を運営して行く予定となっている。学校に相談できる場があるということは、生徒だけでなく、親にとっての安心感になり、頼れる場、学校とつながっていけるという気持ちにもなると思う。是非、子どもたちの安心できる場として広がっていけるとよいかと考える。
- ・規範意識をもって子どもたちは学校生活を送れている。次に目指すのは、より学力の向上か。
- ・コロナ禍、今年度も「職場体験」が実現できず残念に思う。コロナが終息しない中、来年度はコロナ禍でも達成できる新たな課題が見つけられたらよいかと思う。（しっかりと熟議する中で……。）
- ・今後導入される地域部活動について、地域の指導者の適性やかかわり方を考え、しっかり目標を立てるべきである。
- ・来年度もやらまいか講演会を実現したい。コロナ禍でも保護者や地域の方を招く方策を検討したい。
- ・挨拶運動協力校としての姿があまり活発に感じられないため、委員のみなさんからも意見やアイデアを聞いてみたいし、学校側からももっと報告をいただきたい。
- ・校内適応指導教室の運営によって不登校生徒が登校し、授業に参加できるようになることを願っている。コロナ感染に注意しながらも、社会は動き出している。地域行事も復活していくと思いますので、地域活動への参加などコミュニティ・スクールとして力を合わせられると思う。
- ・3学期の2月には6年越しの念願の池野文昭さんのやらまいか講演会が実施された。これをもとに新たな指針と目標を掲げ、息の長い取組が生まれるとよいのではないかと思った。
- ・コロナ禍で、行事等の参加(保護者・来賓)の人数制限があった。どんな内容であったかを来年度も知らせていただきたい。教育活動の充実のために、今までの歩みを大切にして「熟議」を深めていきたい。